

豊島に人が根付く保育園

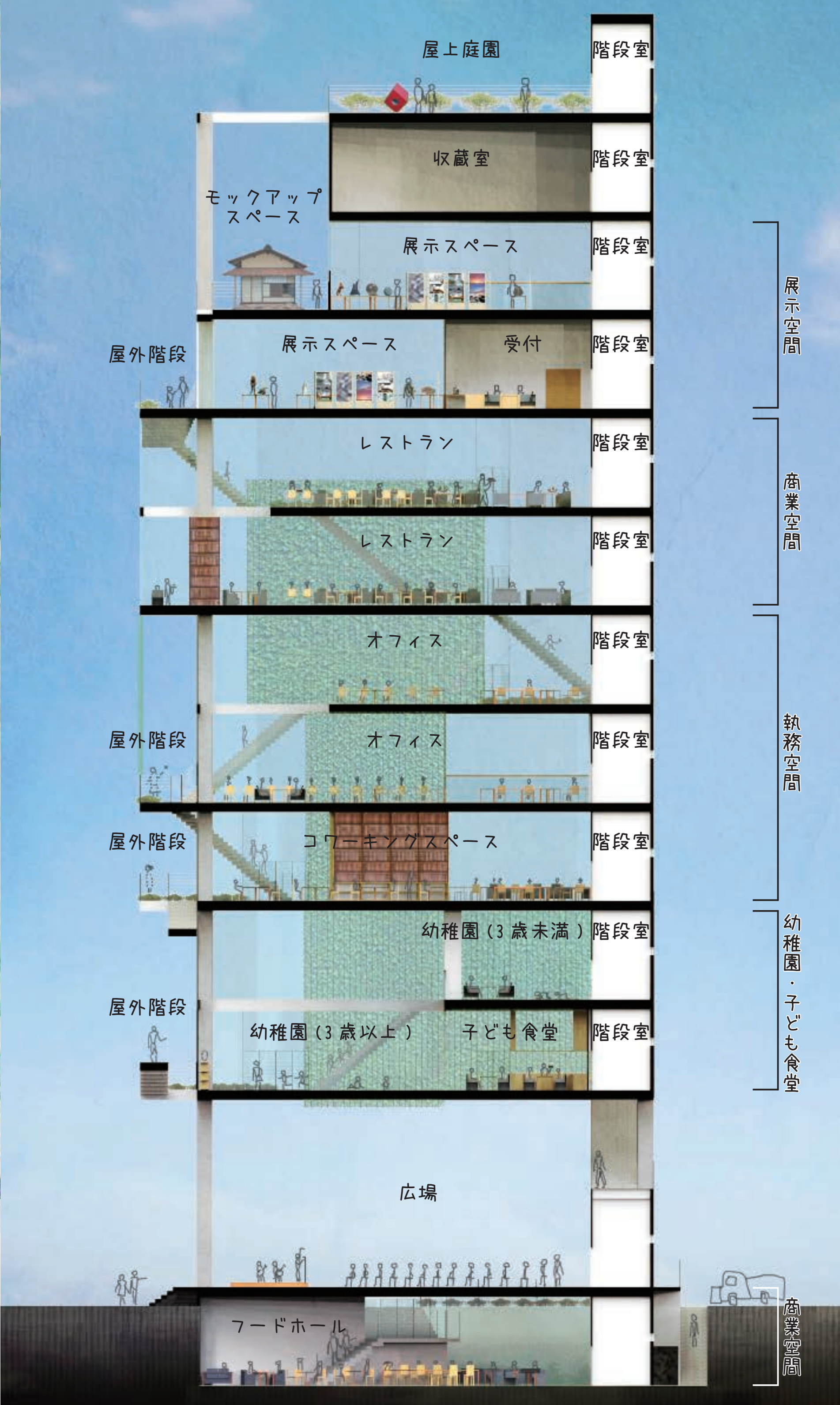
～親子ともに豊島を好きになり、定住する～

豊島区は東京23区で唯一「消滅可能性都市」に指定された。区はこれを重く受け止め、区内の保育園の数を増やし2018年度には待機児童の人数を達成した。そしてその魅力に惹かれ、実際に引っ越しをした親子が大勢いた。

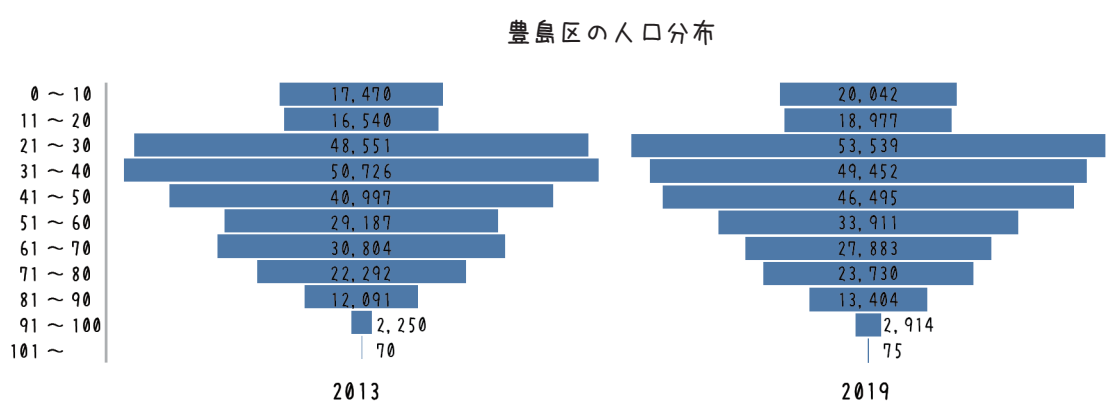
やってきた親子に豊島の良さを知ってもらい、街を好きになり、街で暮らし続けてほしい。街にやってきた親子が自然に地域のひと々と仲良くなることができ、街に溶け込めるような保育園を提案する。

通常コアとファサードに階段を設けることで2方向避難が可能に。また、ファサードの階段は緑のあふれる空間となっており、子どもが駆け回るための屋外空間の役割も果たす。子どもたちの笑顔が街の風景となる。

■ゾーニング計画



■引っ越してきた親子を豊島に根付かせる

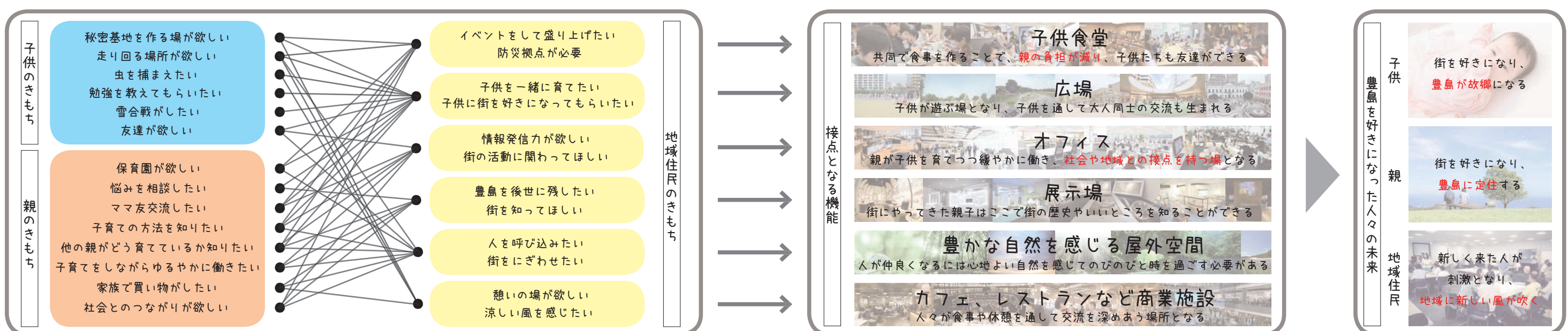


2013年頃、豊島区では30代以上の人間が多量に減少していた。豊島区はこれを子供を育てられる環境が整っていないと判断し、保育園を増やした。その結果、区外から保育園を求めて家族連れ人口が流入することとなり、(グラフでは21～30歳の人口が増加)2018年には保育園の待機児童数を0人という快挙を成し遂げた。せっかく豊島にきてくれたのだから、街の良さを知ってもらいこの地で今後も暮らし続けてほしい。そのための複合保育園を提案する。

■空間の作り方



■子供・親・地域住民の三つのきもちから必要な機能を考える



■豊島保育園によるPFI

